



# なるほどなっとくニュース

県立山口博物館

学校地域連携担当

なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館のホームページでダウンロードすることができます。

## つね おな めん み じんるい あし ふ い ゆいいつ てんたい つき 常に同じ面を見せる、人類が足を踏み入れた唯一の天体・・・「月」

中秋の名月（9月19日）から約2ヶ月後、またきれいな「満月」を見ることができました。

表面の暗く見える部分は「海」と呼ばれ、大きなクレーターの底を、月の内部から吹きだした黒っぽい溶岩（玄武岩）が埋めてできたとされています。



月は、27.3日で地球を一周します。常に同じ面を地球に向けているので、月の裏側を地球上から見ることはできません。

クレーターの凹凸を写したいときは、満月を避けて欠けた月を狙いましょう。明るい部分との境界付近で凹凸がはっきり見えます。



この月面の下部中央に見える巨大なクレーターは「ティコ」といい、直径約85kmもあります。

月には大気がなく、周辺部の地表と宇宙との境界がはっきり見えるので、クレーターなどの凹凸まで見ることができます。

ちきゅう いちばんちか てんたい つき つき  
地球から一番近い天体「月」。月は  
ちきゅう うみ かんまん しお み ひ  
地球の海の干満（潮の満ち引き）の  
げんいん こよみ わたしたち  
原因や、暦のもとになるなど、私たち  
せいかつ おお えいきょう あた  
の生活にも多くの影響を与えてきま  
つぎ  
した。月については、アメリカのアポ  
けいかく にほん つきたんさせん  
ロ計画や日本の月探査船「かぐや」な  
さまざま  
どによって、様々なことがわかってき  
ちか  
ましたが、まだまだ謎も多く、近くて  
とお そんざい  
遠い存在です。

＜月面の撮影がうまくいかないときは・・・＞  
夜間に「月」をデジタルカメラで撮影すると、なかなかうまく写らないことがあります。それは、カメラ任せのオートモードでは、手ぶれをしたり、光が強すぎて月が真っ白になったりすることがあるからです。  
特に満月は、思った以上に明るいので、マニュアルモードでISO（感度）を昼間と同じ100ぐらいにして、シャッタースピードも数百分の1秒で十分です。上の画像は、ISO（感度）「80」、シャッタースピード「500分の1秒」で撮影しています。ただし、この画像は光学50倍のカメラで、光学とデジタルの拡大（望遠）を併用しています。  
（11/17 22:50撮影。正確には11/18の0:16が満月（望）です）  
カメラにマニュアルモードがあれば、ぜひ一度調べてチャレンジしてみましょう。カメラによっては、オートモードでも撮影できる場合があります。



左は、同じカメラのオートモードで撮影した満月です。倍率が低いこともあり、こんな風に真っ白になってしまいました。（ISO1600、1/8秒）